

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392400075		
法人名	有限会社 ケアシステム・ピュア		
事業所名	グループホーム谷崎		
所在地	熊本県玉名郡南関町相谷1789		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者に心地よい毎日を提供できることをモットーとしています。ご本人の気持ちや考えにできる限り近づけるように努力しています。ご家族の協力と、これまでの生活歴をよく知り、お一人お一人のペースで暮らすことができるよう支援していきたいと考えます。

また、当事業所は、理念の一つである地域に愛され親しまれる施設づくりも重視しています。利用者様やそのご家族を中心に、地域の一員としての社会参加を始めとし、ボランティアや運営推進会の皆様のご協力を得て、地域の福祉拠点として貢献できるよう、努力しています。協力医療機関、社会福祉協議会、ケアマネージャーとの連携を持ち、より多くの場面で活躍したいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所4年目は迎えたホームである。法人デイサービスのスタートから11年、同地で地域に密着した運営を心がけ、職員は清掃活動や、入居者にとって馴染みの祭りなどに率先して関わり地域の一員として活動している。また、地域高齢者の見守り事業所として宅配サービスや車両を使った巡視により特に独居世帯を支えるなど、地域貢献に寄与している。管理者は、職員がやりがいをもって働ける様資格取得に限らず本人の持つ特技や、やる気を評価し手当に反映させている。年2回の家族会やホーム行事を通じて信頼関係を構築しており、家族の中には入居者に毎日新聞を届ける方など出来ることで繋がっていたいという思いが伝わってくる。この4月には新しいユニットが誕生し、入居者の活動範囲も更に増すものと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を唱和している。研修会・反省会時に理念の意義を確認しあったり、問題解決の方向性として理念に合っているかなど話し合いや振り返りをして実践に活かしている。	地域密着型事業所として『地域に愛され親しまれるホーム』を理念として掲げている。先に運営をスタートしたデイサービスの思いを引き継ぎ、同地で人々のニーズに応えられるよう努力している。職員は新人研修で具体的に「どういう心がけ、気持ちをもって関わるか」について学び、毎朝唱和することで職員の意思統一を図っている。	理念について運営推進会議等の席で地域へ向けた啓発を行ったり、職員の日々のケアの指針として、理念を具現化した年目標を設定するなど、検討の余地があると考えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者一人一人がつながりを持ち暮らすことは具体的には困難であるが、G. H. としてのつながりを持ち、職員が手分けをしていろいろな作業・奉仕に参加している。区費を払って地域の回覧物や配布物・会合などにも参加している。	ホームは地域の一員として人々と共に行事に参加し、年数回の草刈り作業や地元で親しまれる二城山の道路整備、神社清掃などに積極的に関わっている。また、行政と協定を結び高齢者の見守り協力事業所として車両を使った地域高齢者への声掛けや、異常の早期発見などに貢献し、宅配サービスを活用した安否確認などにより、独居者の在宅生活を支えている。系列のデイサービスは地域の福祉避難所ともなっている。	管理者は以前、地域から声の上があったホーム車両の離合の際の対応について真摯な気持ちで受けとめ改善に努めたり、福祉避難所としての物品の充実などにも意欲的である。今後の取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校・中学校との交流、地域の福祉員としての貢献、運営推進会議時、行事の時などに、地域の皆様への認知症についての講話の実践、支援のお願いなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進員の方々の専門分野の勉強会をお願いして実施し、サービスに活かしている。推進員の方々の質問や意見などで問題を深く考え、話し合い、よりよいサービスとなることができている。	2ヶ月ごとの定期開催が実現しており、行政や地域・入居者の後見人や家族代表が参加している。会議を利用したAED講習は毎年実施され、参加者と共に使用方法を学ぶと共に、地域へAEDの活用についても啓発している。毎回参加者からの意見は多く、ホーム運営に活かされ、会議内容は年2回の家族会を通じ情報がもたらされている。	ホームは小・中学生の体験学習の受け入れを支援しており、今後は学校関係者などにも参加を呼びかけ、新年度の2ユニット体制に向け更に意見の拡充を図ることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には、ケアサービスで困った時に相談をしたり、助けてもらっている。グループホームの希望者の実情や問題点を細かく伝えて電話・訪問などで頻繁に話す機会を持っている。町からの研修連携会議にも積極的に参加している。	行政からの運営推進会議への毎回の参加により、ホームの現状を身近に感じてもらいながら様々な意見や提案を得ている。地域高齢者を行政と一体となって見守り、気になる点はその都度報告しながら社会貢献に寄与している。管理者は相談事や質問があれば、直接役所を訪れては適切な助言を得ており友好的な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会・勉強会でのテーマとし、具体的な状況・問題点などを出し合う。職員中心の動きに合わせてもらうような声かけをなくすように心がけている。	職員は外部研修後の復講やホーム内での勉強会で拘束について学ぶ機会を持っている。重度化の中、ホーム内は決して賑やかな雰囲気ではないが、馴染みの南関弁での会話や、ゆっくりした関りが入居者の生活を支えている。	以前、退院直後に医療機関からの指導や、排泄による布団汚染などに対応し、つなぎ服を使用した経緯があるが、今後も全職員で話し合い、最終手段として使用していただくことを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員ともに外部研修などに積極的に参加して学びを深め、小さな変化にも気づき見逃さないように努力をしている。打ち身などを発見した場合は原因を究明して職員間で確認し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人の資格を取得している。成年後見人制度を利用される利用者も増え、地域にも浸透してきている。利用者ご家族などの相談には積極的に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などに署名・捺印をもらう時に十分説明をし、疑問点などに答えている。家族会にて改定等の立案をし、話し合い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・推進会時に意見などを求め、その都度答えたり、話し合いの機会を設けている。職員には研修会・勉強会時に家族・推進員などの意見を共有し、改善点・反省点などを考え、よりよい運営につなげている。	年2回の家族会ではホームの現状や地域との交流を運営推進会議の内容と共に発信し、家族意見の収集に努めている。面会時に入居者の日々の様子を伝えながらコミュニケーションを図り、細かい要望にも応じる姿勢を示している。入居者の意見や要望は普段の関りから引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回月曜日の夕方5時から1時間程度機会を設けていることと、常に代表者とのコミュニケーションを心がけている。時間がないときは電話で話すこともある。	申し送り時に入居者の現状を確認すると共に、ケアや業務改善について自由に提案できる機会を持っている。月の会議では必要な事項を更に協議し、ホーム運営に反映させている。管理者は普段から職員の意見や個人的な相談事にも耳を傾け、話し合う時間を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による給与手当アップ・ボーナス・臨時手当など、個々の努力や勤務状況に応じている。各自仕事の内容で責任を持ってもらい、やりがいを感じてもらおうよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回の研修会時、その他外部研修の参加、いろいろな状況での先輩からのアドバイスや代表者からの指導など、ほぼ毎日行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有明地区のネットワークに参加させてもらいグループホームの空き状況を提供している。研修会などで知り合った同業者とのつながりを深く持ち、お互いの研修の場とさせてもらっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	それまでの生活歴をできる限り集め、職員全体で共有し、本人をよく知る努力をしている。本人がどのようなことが好きか、また嫌がられるかを話し合い、精神的に安定されるような接し方を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かいことでも電話で確認したり、人によってはメールを送って返事を待ったりしている。少しの変化でもなるべく報告して信頼関係を作ることを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは十分なリハビリや外部との交流が足りないと思う方には、在宅サービスを提案してみたり、本人が在宅希望を強くされているときは他のサービスを利用しながら、家族への相談を一緒にしたこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度も上がり、暮らしを共にするという形は難しくなったが、スキンシップやコミュニケーションで笑顔の共有、笑いの共有を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出、季節の行事などの時、ご家族も参加、支援していただくよう心がけ、家族の絆を大切にもらうことをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人に時々電話をしてきてもらうようお願いしたり、行事などに参加してもらう機会を設けている。	家族や親戚、近所の方が気軽に訪れることのできるホーム行事(夏祭り・クリスマス会・研修会)を企画し、交流の機会を持っている。食材は入居者にも馴染みの商店からの配達とし、地元の行事『難関祇園さん』では祭り参加者の来所などがあっており、入居者が地域の人々と関わる機会を設けている。家族の協力による法事や誕生会への外出なども支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの方はより仲良く、気が合わない方はあまり近くに座られないように気をつけたり、職員が間に入ってワンクッションおいて関係を持ってもらったりして、できるだけ皆平等になるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事のお誘いや季節の挨拶のはがきを送ったりして、関係を大切にしている。退所されても、いつでも声をかけられるようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでもご本人の意志、希望は何かを顔色、表情、言葉で読みとり、小さな事でもできるだけ希望通りになるよう心がけている。	入居者の中には自身の言葉でしたいことや行きたいところへの希望を口にされる方もおられるが、表現困難な方へもちょっとしたしぐさや顔の表情で思いを汲み取り、日常の支援に反映するよう心掛けている。	ユニットの増床により、4月にスタートする新たなユニットとの交流が期待されるところであり、行事の時ばかりでなく普段から行き来し、入居者同士の会話からも声を拾うことが出来ると思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネージャー、ご家族、主治医などからできるだけたくさんの情報を得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での動き、機能訓練として歌を歌ったり、簡単な体操の中で残存能力を把握したり、毎日の生活の中で様子観察を細かくしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に職員と計画作成者との会話の中での気づきの報告、経過の報告、週1回の研修会、ミーティング時での話し合いを参考にして作成している。	職員は日々の関わりの中で入居者に寄り添い個々の思いを把握しながらプラン作成に関わっている。「家に帰りたい」「からだがきつい」など、気持ちが落ち込んだ時には様子を見ながら話しかけ、一緒に歌をうたうなど気持ちの切り替えをしながら安定したホーム生活を送るための内容としている。重度化が進んでいる現状ではあるが、併設デイサービス時代からの長い関係性を活かし、入居者の声をしっかり受け止めるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護実施表に記入し、気づき・工夫などは、申し送り・日報に記入して、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会、町の介護保険課などに相談しながらアドバイスをもらったり、協力を願っている。ボランティアや専門家の方々にも助けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郵便局、警察と協力して、高齢者向けにオレオレ詐欺の予防啓発のためのハガキを配布した。派出所の警官にもグループホームの把握を促し、安全な暮らしの協力を要請した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は常時行い、簡単な問題、連絡もお互いに話し合っている。	これまでのかかりつけ医を継続して支援しており、現在3ヶ所の医療機関より月2回の往診が行われている。緊急時はその都度職員が受診を支援している。主治医の指示で他科を受診する時は、家族も同行し情報を共有している。また、訪問歯科の利用や歯科衛生士による衛生管理など、口腔ケアに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時は前診時または前連絡時よりの経過報告を行い、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医以外、特に多くお世話になる病院の連携室などとの連絡情報交換、情報共有をして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と話し合い、連絡しあいながら方針を共有し、事業所でする範囲で支援をしている。	現在は、主治医と連携しながら、ホームに出来るギリギリまで支援しており、最終は医療機関での対応となっている。	重度化や終末期支援に関する方針の作成には至っておらず、今後の課題としている。高齢化やADLの低下は否めず、ホームにできる事、できないことをハッキリと定め、今後ご縁のあった入居者・家族に最良の時間を支援いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回の消防訓練、AEDを使っでの訓練、緊急の場合の連絡訓練などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制も区長さんより申し出があり、災害時には昼夜を問わずたくさんの方々の支援を約束している。	今年度は6月に自主訓練、9月に消防署の参加協力による避難訓練を実施している。自然災害については、校区の危険マップが事務所内に掲示されており、法人デイサービスが福祉避難所となっている。備蓄については、インスタント食品や水分補給となる飲料を準備している。運営推進会議の中で、地域の消防本部や消防署によりAEDの使い方・心肺蘇生について受講している。	今後は備蓄の中に毛布なども揃えたいことや、法人内で災害時の居室提供が可能であるため、地域貢献への意欲が伝わってきた。新年度には新ユニットが開設し、入居者の人数も増えることから、更なる安全確保に努めていかれることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴、人格を知ることを努力し、丁寧な言葉遣いとそれぞれに適切な対応をすることを心がけている。	法人理念に『真心と笑顔で一人ひとりを大切にした支援』を掲げ、尊厳を持って丁寧な対応を心がけている。呼称は基本的に「苗字にさん付け」とし、ご夫婦の場合は苗字と下の名など、戸惑いがないようにしている。個人情報の使用については、家族の承諾を得ており、運営推進会議の中でも個人情報の使用について意見交換がされている。また、職員の守秘義務についても周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護度の高い利用者の希望を見いだすことは難しいので、二者択一かイエス・ノーの答えにて自己決定と希望を表してもらうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低の規則正しい生活を保ちつつご本人の過ごされたいスタイル、好みの場所などを検討し、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に同行したり、定期的に美容師に来てもらっている。気に入っている服はボタンを付けたり、縫い物などをして大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたいもの、好きなものを探り出すように努力し、なるべく好みのものや季節のものを提供するようにしている。	栄養士が作った献立をもとに職員が調理を行っている。食材は地元の商店からの配達や野菜は物産館に購入に出かけるなど、地産地消を活かした食事支援に努めている。雑祭では雑粥・雑ソーメン・雑ゼリーなど行事食では特に工夫を凝らしたメニューで提供している。また、訪問当日はタケノコが使用され、初物の食材も会話の弾むきっかけとなっていた。また、食に関わるイエス・ノークイズを楽しみながら入居者が食へ通じることが出来るようにしている。	現在職員は持参した弁当などを摂っているが、入居者と同じものを食べることで思いも共有できることから、検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつを一日二回して十分な水分摂取を実施している。それぞれにあった量や食形態を検討して毎回全量摂取されるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1～2回の歯科衛生士による検診及び診療の必要な方には訪問歯科による対応をしている。毎日食前・食後3回口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレで排泄され、その方のパターンに合わせて声かけし、失敗のないよう支援している。	日中は全員トイレでの排泄を支援しており、個々のパターンに合わせて声掛けや誘導を行っている。排泄用品も状況に応じて、最良のものを検討しており、1日を通して布下着で過ごされる方もおられる。トイレ内は次に使用される方が気持ちよく排泄できることを心掛け、夜間使用される方のポータブルトイレも洗浄を徹底し清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬のコントロールは医者との相談の元に行い、午後のおやつにはサツマイモを使ったものなどを多く提供したり、水分を十分にとられるようにし、毎日の運動を促し、定まった時間にしばらくトイレに座って様子を見られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は午後1:00～3:00頃と決まっているが、基本的に1日おき、本人の体調と希望によりその都度決めている。	基本的に午後から週2～3回の入浴を支援しており、拒否の方へも無理なく週1～2回入ってもらうようにしている。職員は着脱や移動は2名体制で安全な入浴に努めており、ゆっくりと湯船の時間を持てるよう心掛けている。菖蒲・柚子湯や柑橘系の入浴剤を使用するなど、季節や香りを楽しむ支援も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜によく眠れるように、日中はなるべく刺激的に生活されるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医などに直接預かり1日分の薬を看護師が個別に朝・昼・夕・寝る前に準備して間違いのないよう、その都度確認して飲まれる直前に渡すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑誌やテレビが好きな方にはなるべく自由にいただき、お酒も家族・本人の希望があれば1杯は飲むことができる。詩吟、歌が好きな方には行事の時などに発表していただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援の元、または行事の一環として外出している。行事の時はデイサービスへ出かけることもある。	家族の協力による外出や身近に散歩を楽しめる環境であり、季節や入居者の状況に応じて外出や、ウッドデッキでの日光浴を行っている。また、同法人のデイサービスに出かけボランティアとの交流やイベント(音楽会やハロウィンパーティ・餅つきなど)への参加の機会も持たれている。今年度はドライブを兼ねて大型物産館やショッピングセンターなどでの買い物や足湯を楽しむ外出にも出かけている。初詣は地元の神社で参拝し、南関町ぎおん祭り見学は入居者にとって何より楽しみな外出となっている。	入居者の身体状況から全員での外出の機会は困難になっていくと思われる。新年度には新ユニットが開設予定であり、今後はお隣さんとしての行き来も外出の機会とし、入居者同士の交流を楽しんでいただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持される方はいなくなった。買い物に行く時は家族が同行され、その都度支援されている。必要な物もご本人に伝えてご家族の許可を得て購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は困難であるが、電話はお手伝いによって実行されるときもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るすぎないものにして、室温は一定に保つ努力をしている。懐かしい音楽などを流して喜んで頂いたり、日めくりカレンダーで見やすく掲示している。	中庭を囲んで居室やリビングホールが設けられており、どこにいても緑の木々や花々を見ながら過ごすことが出来る環境である。照明の具合いや温湿度管理に努め、入居者にとって懐かしい音楽を流しながら寛げる時間が持てるようにしている。家族の中には、面会を兼ねて朝刊を届けられる方や定期的に雑誌を送られる方もあり、リビングなどでページを開かれている。ゆっくりと過ごしてほしいとの家族の思いが伝わってくる	自然に恵まれた環境であり、今後も身近な草花を活かし季節感のある空間作りに期待したい。また、イベントや外出時の写真については、直近の物を掲示することで本人や来訪者の楽しみに繋がるものと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを離れたところに設置したソファを多く置き、それぞれのお気に入りの場所を確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使われていたタンスや小物を持ってきて頂いたり、ご家族とご本人の話し合いで居室を使われている。	家族には使われていた家具・小物などの持ち込みや、飾り付けも自由に行ってもよいことを伝えており、職員が異食に配慮しながら環境を整備している。持ち込みの量や品々は様々であり、本人にとっての居心地の良さを見極めながら、安全な居室作りに努めている。居室からの眺めは樹木や田畑など見慣れた光景も、安心できる環境となっている。	居室内に置かれた排泄用品については、クロスを掛けるなど一工夫されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでドアも力がなくても開閉ができるようにしている。		